

令和2年度事業報告

世界中で拡大している新型コロナウイルスの感染は日本都市部でも急速に拡大し、4月7日に都市圏7都道府県に緊急事態宣言が発せられ、4月16日には全都道府県に緊急事態宣言が発出されました。新型コロナウイルスの感染は未だに収束の目途が立っておらず、日本社会がかつて経験したことのない広範な経済活動の停止は、個人や事業者の収入の減少、雇い止め、失業などを招き、多くの方々が困窮状態に陥っています。また、高齢者の外出が少なくなることにより運動機能の低下や地域の人とのコミュニケーションが減り、認知機能の低下や精神状態への影響も深刻になっています。

このような状況の中、本会としても感染予防対策を徹底し、地域福祉の中心的な役割と使命を認識しながら各事業を推進してまいりました。

県社協の受託事業である生活福祉資金貸付制度の特例的な貸付(緊急小口資金・総合支援資金)の相談及び申請が大幅に急増した中、生活が維持できるよう円滑に貸付を行なうことができました。貸付世帯については、長期的な支援が必要であるため、世帯の状況を確認しながら相談体制の充実を図ります。

また、新庄市と本会では、誰もが安心して暮らせるよう制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて地域をともに創っていく地域共生社会を実現するために「第3期新庄市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画」を策定しました。令和3年度よりその計画が達成できるように関係機関と連携を図りながら事業に取り組んでまいります。

放課後児童健全育成事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温やうがい、手洗いの徹底、消毒、定期的な換気等の予防対策を行ない、安全面に配慮しながら事業を展開しました。

もみの木訪問介護事業では、高齢者や障がい児者が住み慣れた地域で、安心して自立した在宅生活を営むことが出来るように事業を実施しました。介護員の人材不足と高齢化が大きな課題となっており、処遇改善加算を導入し、新規採用の推進と離職防止に努めました。昨年度に引き続き、ハローワークや県福祉人材センター、本会の広報紙で求人の募集掲載を行ないました。

もみの木介護支援事業所では、職員を1名増員したことで職員体制の充実を図り、円滑に業務を遂行できました。介護サービス計画(ケアプラン)を立案し、在宅や施設で生活している方々の相談に応じ、介護サービスの利用調整や関係者間の連絡等を行ない、利用者の心身の状況にあわせて自立した日常生活を営むことができるよう支援しました。

地域包括支援センターでは、高齢者等に関するあらゆる相談を受け止め、課題解決に向けた助言や適切なサービスに繋げる支援を行ないました。特に認知症や精神疾患等による困難事例が増えているため、医療機関や行政等と随時協議しながら適切な対応を行ないました。

また、新型コロナウイルスの影響で各研修会や会議を中止したこともありましたが、感染症対策を万全にした上で、可能な限り開催しました。今年度は、新たな取り組みとして、コロナ禍での外出自粛に伴う一人暮らし高齢者の健康状態や安否を確認するため、市健康課と見守り巡回訪問を実施するなど、新たな連携体制を構築できました。

最後になりましたが、各種事業にご支援ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げ、令和2年度主要事業につきまして、次のとおりご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	令和2年 6月8日(月)	出席理事 15名 出席監事 2名
---------	--------------	---------------------

※新型コロナウイルス感染の拡大防止のため招集を中止し、書面決議を実施した。

◇第2回理事会	令和2年6月30日(火)	出席理事 11名 出席監事 2名
---------	--------------	---------------------

◇第3回理事会	令和3年3月19日(金)	出席理事 10名 出席監事 2名
---------	--------------	---------------------

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	令和2年 6月24日(月)	出席評議員 24名 出席監事 2名
----------	---------------	----------------------

※新型コロナウイルス感染の拡大防止のため招集を中止し、書面決議を実施した。

◇第2回評議員会	令和3年 3月29日(月)	出席評議員 24名
----------	---------------	-----------

※新型コロナウイルス感染の拡大防止のため招集を中止し、書面決議を実施した。

(3) 監査の開催

◇第1回監査	令和2年 5月22日(金)	出席監事 2名(令和元年度分)
◇第2回監査	令和2年11月25日(水)	出席監事 1名

(4) 委員会の開催

◇評議員選任・解任委員会	令和2年 6月 9日(火)	出席委員 5名
※新型コロナウイルス感染の拡大防止のため招集を中止し、書面決議を実施した。		
◇老人福祉センター運営委員会	令和2年 8月 3日(月)	出席委員 7名
◇歳末たすけあい配分委員会	令和2年12月 8日(火)	出席委員 8名
◇新庄市善意銀行運営委員会	令和2年12月 8日(火)	出席委員 8名
◇表彰選考委員会	令和3年 2月15日(月)	出席委員 5名

(5) その他

◇会計訪問指導	令和2年 5月18日(月) 令和2年 9月23日(水) 令和3年 1月22日(金)	高山税理士 高山税理士 高山税理士
◇福祉サービス利用援助事業ヒアリング	令和2年 9月 3日(木)	福祉サービス運営適正委員会
◇福祉サービス利用援助事業に係る訪問調査	令和2年 9月 3日(木)	県社協
◇職員採用試験	令和3年 2月20日(土)	

2. 事務局運営事業

関係機関及び団体との連携

① 行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただいた。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただいた。
- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費の補助をいただいた。
- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業(中央・日新・北辰・荻野)、地域活動組織育成支援事業、福祉バス運行管理事業、敬老会支

援事業を委託事業として実施した。

- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行なった。

②区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広く協力をいただいた。

③民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただいた。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りを協力いただいた。
- ・第2区民児協議会定例会における「生活福祉資金特例貸付」の説明
日 時：令和3年3月17日（水）13時30分～14時30分
場 所：新庄市役所東庁舎201・202会議室
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配付のご協力をいただいた。

④県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施した。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただいた。

⑤関係諸団体との連携

- ・各婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会やその他の関係諸団体と、共同募金活動等、各事業において連携とご協力をいただいた。

（事業効果等）

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

⑥地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けた取り組み

- ・第3期新庄市地域福祉計画・第4期新庄市地域福祉活動計画を策定するため、アンケート調査結果を基に、検討会、推進委員会を市と合同で開催した。

○検討会の開催

- ・日時：①令和2年10月26日（月）13：30～15：40
②令和2年12月14日（月）13：30～14：40

○推進委員会の開催

- ・日時：①令和2年11月 9日（月）13：30～15：40
②令和2年12月21日（月）13：30～15：20
③令和3年 1月15日（金）13：30～15：30
④令和3年 2月12日（金）13：30～15：10

（事業効果等）

地域共生社会の実現に向けて計画的に福祉を推進できるよう地域住民・行政と協働し、地域・福祉課題について共有することが出来た。令和2年度中に地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定し、令和3年度以降にその取り組みを推進していく。

3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進した。

また、6月下旬の5日間の期間、市役所内で行なう各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めた。

令和2年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
7,794,530円	7,849,800円	△55,270円	99.3%	17件

集中受付期間 6月22日～30日

期間中社協会費納付地区数 167町内

(課題等)

社協事業への理解・協力を求める為、昨年度に引き続きホームページによる情報提供や事業周知を行なうことを継続する。

4. 実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す実習生の受入れを行なった。

(介護支援事業所)

【介護支援専門員実務研修実習】

実習生1名

受入れ期間 令和3年1月26日(火)

令和3年2月 4日(木)

令和3年2月 5日(金)

(訪問介護事業所)

【訪問介護実習】

東北文教大学学生1名

受入れ期間 令和2年8月24日(月)～25日(火)

東北文教大学学生1名

受入れ期間 令和2年9月10日(木)～11日(金)

(事業効果等)

実習生を受け入れることで、将来の福祉を担う専門的な人材が育成されると共に、指導する担当者が専門職としての知識や技術の再確認を行なった。

5. 職員研修

各事業所が個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、社会福祉協議会としての危機管理対策や職員育成のための研修を行なった。

○メンタルヘルス研修会

職場におけるストレスを笑顔に変えるメンタルヘルスト、相手も自分も大切にしながら、それぞれがお互いを尊重して率直に自己表現を行うためのコミュニケーションを学んだ。

日 時：令和2年10月28日(水) 14時～15時30分

場 所：社協3階会議室

講 師：Smile Dream アドバイザー 荒生多喜 氏

参加人数：26名

○交通安全講習会

山形県火災共済協同組合の職員を講師に迎え、事故防止のための運転方法、冬道運転のポイント、危険感受性チェックシートを用いた交通リスク管理能力の把握等について学んだ。

日 時：令和2年11月12日（木）14時～15時30分

場 所：社協3階会議室

講 師：山形県火災共済協同組合 菅野祥生 氏

参加人数：24名

○令和2年度新規採用職員研修

新たに正職員となった職員を対象に、法人組織の一員としての基本的知識の習得及び社会人・組織人としての自覚形成を促し、地域福祉を推進することができる社協職員に育成することを目的に行なった。

日 時：令和2年4月24日（金）9時～12時

場 所：社協3階会議室

対 象：新規採用職員4名

講 師：富樫常務理事、三浦事務局長、高橋・黒坂事務局次長

○令和2年度中堅職員研修

中堅職員としての自覚とともに所属部署のみならず、社協全体を考えられる視野を持つ社協職員に育成することを目的に行なった。

日 時：令和2年10月7日（水）9時～12時

場 所：社協3階会議室

対 象：主事～主任までの正職員採用後概ね5～10年程度の職員 10名

講 師：富樫常務理事、三浦事務局長、高橋・黒坂事務局次長

6. 各種表彰該当者の推薦

第70回山形県・県民福祉大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により中止となる。

社会福祉の分野で顕著な功績があった方に対し、その功を称え山形県及び山形県社会福祉協議会から表彰状が贈られた。

《山形県・県民福祉大会会長表彰》

（敬称略・順不同）

民生委員・児童委員功労者 奥山仁兵衛 亀井 弘一 庄司 光昭

仙台 栄治 武田 文子 中塚 悟

福井 栄子 町田 宏 矢口伊和子

一般社会福祉事業関係功労者 大山 悦子 鈴木 淳一

社会福祉事業従事者 中島 美果

社会福祉事業協助・奉仕者(団体) 新庄市本宮1区赤十字奉仕団

7. 福祉教育の推進

学生からのボランティア活動の相談等を実施し、除雪ボランティアとして協力いただいたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募金活動や高齢者・児童施設でのボランティア活動は自粛した。

8. 福祉サービス利用援助事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

認知症の症状や知的がい害、精神障がい等によって必要な福祉サービスを自身の判断で適切に選択・利用することが難しい方を対象に、福祉サービスの利用手続きの援助を基本サービスとして、必要に応じて日常的な金銭管理の支援を行なった。

最上管内利用件数 22件（前年度23件）内、新規契約締結件数 6件、解約件数 7件

令和2年度相談件数 291件（前年度297件）

〈最上管内利用件数内訳〉

	新庄市	大蔵村
件数	22	0

（事業効果等）

福祉サービス等の利用援助やそれに伴う日常的な金銭管理を実施することで、利用者が安心して在宅生活を営むことが出来た。

9. 生活福祉資金貸付事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施した。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行なった。

〈令和2年度貸付内訳〉

R2年4月～R3年3月

資金種類	件数	貸付金額
福祉資金（技能習得）	2件	2,112,000円
緊急小口資金	3件	230,000円
緊急小口資金（特例）	91件	17,100,000円
総合支援貸付（特例）	38件	19,950,000円
総合支援貸付 延長貸付（特例）	7件	3,750,000円
総合支援貸付 再貸付（特例）	10件	5,300,000円
合計	151件	48,442,000円

（事業効果等）

生活福祉資金特例貸付において、新型コロナウイルス感染症の影響により、休業や失業等の理由で生活が困難となった方々に対して、生活再建までの間に必要な生活費用の貸付を行なうことでセーフティネットの役割りを果たした。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことができるよう、閉じこもり予防や介護予防を目的とした「地域ふれあいサロン」の活動や運営、立ち上げを支援した。

◇サロン活動の実施状況

	開催地区	実施回数（回）	参加人数（名）
1	下金沢地区	7	6 9
2	老人福祉センター周辺	7	5 9
3	泉田地区	0	0
4	本合海地区	1 5	9 5
5	金沢新町	8	5 4
6	あたご地区	0	0
7	本宮一区	1 5	1 5 6
8	泉田桜通り	0	0
9	野際団地	0	0
1 0	八向地区	1 0	1 0 2
1 1	西町地区	3	1 4
1 2	千門町地区	2 4	1 9 1
1 3	松枝地区	5	4 8
1 4	上西山地区	6	5 4
1 5	下仲町地区	5	3 8
1 6	柏木山	6	4 9
1 7	若葉町中央	7	4 3
1 8	吉袋地区	5	6 3
1 9	上仲町	2	1 9
2 0	鳥越	2 8	3 8 3
2 1	栄町	3 5	4 4 0
2 2	滝の倉	2	1 2
2 3	梨の木	9	5 6
2 4	若葉東	0	0
2 5	小泉	4 1	3 9 8
2 6	鉄砲町	1	1 3
2 7	下田町	6	7 1
2 8	上茶屋町	3 1	2 3 2
	合 計	2 7 8	2, 6 5 9

（事業効果等）

地域の代表者とサロンの立ち上げに向けての協議や活動するために必要な支援を行なうことで、新たに2つの地区（下田町・上茶屋町）でサロンを立ち上げることができた。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、マスク着用、定期的な換気等、予防対策を行なって実施した。開催自粛や中止の地区が多く、昨年度より開催件数、参加人数とも減少している。

◇地域ふれあいサロン交流会

地域ふれあいサロン交流会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

1 1. 福祉バス管理事業（市委託事業）

市の委託を受け、福祉バスの運行管理を行なった。

利 用 団 体	件数
老 人 ク ラ ブ	2
障 が い 者 団 体 等	3
民 生 委 員 児 童 委 員	1
福 祉 関 係 団 体	0
高 齢 者 団 体（スポーツ）	1
児 童 関 係 団 体	1
地域活動組織育成支援事業 （地域ふれあいサロン事業）	0
そ の 他	1
合 計	9

（事業効果等）

7月より「福祉バス」がリニューアルされ、車椅子2台が乗車可能となった。7月17日に新庄市役所で新庄市福祉バス運行出発式及び試乗会が行なわれた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運行中止や利用団体の自粛により利用件数は減少した。

1 2. 敬老会支援事業（市委託事業）

町内会等で開催される敬老会の行事に必要な経費の一部を助成した。

開催地区 5地区 参加者 341人

補助金額 89,252円

（事業効果等）

敬老会を支援することで、高齢者福祉の増進に寄与した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、開催地区が9地区中止となった。

1 3. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮者世帯に貸付を行なった。

			令和2年度	前 年 度	対前年比 (%)
現 年 度	払出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	貸付	件数	21件	9件	233.33
		金額	469,000円	168,000円	279.17
	未償還	件数	11件	4件	275
		金額	197,000円	76,000円	259.21
全 体	未償還	件数	21件	16件	131.25
		金額	375,000円	286,000円	131.12

(事業効果等)

緊急的な支出を要したり、生活費が不足した相談者に対して貸付を行なうことで、セーフティネットとしての役割を果たした。生活困窮者の自立に向けた支援となるよう生活自立支援センターもがみと連携して相談対応を行なえた。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	H20	H24	H25	H26	H27	H28	R1	R2	合 計
件数	1	1	2	1	1	3	1	1 1	2 1

※H29、H30年度は0件

◇フードバンクの提供

生活自立支援センター、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の42世帯に食品を提供した。
※歳末たすけあい配分の該当世帯のうち、母子・父子世帯(子3人以上)の18世帯に対し、共立社新庄生協からのフードドライブで寄贈いただいた食料品を提供した。

1.4. 放課後児童健全育成事業(市委託事業)

市の委託を受け、市内4ヶ所の学童保育所を運営した。

中央学童保育所(堀端町) 日新放課後児童クラブ(松本)

北辰学童保育所(北辰小学校内) 萩野放課後児童クラブ(萩野学園内)

施設	対象学区	職員数	年間開所 日 数	定員	利用児童数(名)			
					年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数
中央	新庄・沼田	4名	290日	60名	8,602	60	46	29.6
日新	日 新	8名	290日	90名	13,391	79	69	46.1
北辰	北 辰	3名	289日	25名	4,020	23	18	13.9
萩野	萩 野	3名	290日	40名	6,864	40	38	23.6

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温やうがい、手洗いの徹底、消毒、定期的な換気を行なった。

日新放課後児童クラブについては、入所希望者増により、児童の定員を80名から90名に変更し、職員についても2名増員した。

新庄放課後児童クラブと明倫放課後児童クラブの開所に向けて関係機関と連携を図った。

(課題等)

日新放課後児童クラブについては、入所定員増に伴い、打撲等の怪我が多くなっており、職員の目が届きにくく安全面に不安がみられる。

また、アレルギー体質や服薬等、特別な支援が必要な児童も増えており、職員体制の見直しと処遇改善が課題である。

放課後児童クラブ運営指針の子ども集団の規模(支援の単位)については、子どもが相互に関係性を構築したり、1つの集団としてまとまりをもって共に生活したり、放課後児童支援員等が個々の子

どもと信頼関係を築いたりできる規模として、おおむね40人以下としているため、本会としても、子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整えられるように市子育て推進課と協議していく。

15. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付した。

団 体 名	内 容 等	金 額 (円)
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族会活動事業への支援 (市補助金 218,000 円)	218,000
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	56,000
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	43,000



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

16. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

(1) 広報紙「社協だより」の発行

◇第42号	令和2年 7月発行	全戸配布
◇第43号	令和2年11月発行	全戸配布
◇第44号	令和3年 3月発行	全戸配布

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行なった。

(2) ホームページ・フェイスブックの運営

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業や活動について、市民の皆様へ情報を提供し、広報の啓発を図ることができた。また、災害時におけるボランティア募集等に備えるためにフェイスブックを立ち上げ、情報提供の体制が整備された。

新庄社協ホームページQRコード→



17. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をした。

事業実施福祉団体	内 容 等	金 額 (円)
社会を明るくする運動推進委員会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000

(事業効果等) 上記の団体に助成し、事業推進を図った。

18. 社会福祉協議会表彰等事業（共同募金配分金事業）

（1）社会福祉協議会表彰

※新型コロナウイルス感染の拡大防止のため授与式は行なわず、受賞された方には賞状と記念品を自宅にお届けした。

社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行なった。

◇ 会長表彰受賞者 4名

《一般社会福祉事業関係功労者》

押切あき子 （新庄市更生保護女性会会員）

沼澤 啓子 （新庄市更生保護女性会会員）

前島 誠一 （身体障害者福祉協会役員）

大場あゆみ （新寿会職員）

◇ 会長感謝状 8名、2団体

《社会福祉事業協助・奉仕者》

福井 栄子 佐藤 茂安 加藤香代子 中山 幸子

大場 孝代 小原 芳子 奥山嘉代子 小松 和子

日新学区婦人会 沼田学区婦人会

（敬称略・順不同）

（事業効果等）顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できる。

（2）敬老祝い品の贈呈

長寿の方々に会長の祝詞を添え、祝い品の贈呈を行いました。

白寿対象者 24名 （男 6名 女 18名）

米寿対象者 261名 （男 86名 女 175名）

（事業効果等）祝い品の贈呈により、長寿の方への尊敬・感謝の想いを示した。

19. 心配ごと相談事業（共同募金配分金事業）

◇弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 千葉剛志弁護士（令和2年10月まで）

浅沼 敬弁護士（令和2年11月より）

毎月第3週木曜日（午後1時30分～午後4時）

◇一般相談 （社協職員対応） 平日（午前8時30分～午後5時15分）

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	11件	生 計	44件
離 婚	8件	高齢者・介護	6件
遺言・相続	6件	障 が い	7件
近隣トラブル	1件	除 雪	0件
財産・不動産	18件	ボランティア	0件
高齢・障がい	2件	新型コロナ関連	262件
労 働	0件	そ の 他	12件
消 費 者	1件		

苦 情	3 件		
そ の 他	2 件		
合 計	5 2 件	合 計	3 3 1 件

(事業効果等)

弁護士相談は、法的な対応を要する問題の解決に向けての方向性を示し、適切なアドバイスを行なっていた。一般相談は、新型コロナウイルス感染症の影響で生活困窮による貸付の相談や生活設計に関する相談が多く、福祉行政、生活自立支援センター・民生児童委員・山形県社協などの関係機関と連携して、相談者の自立に向けて迅速かつ包括的な支援を行なうことができた。

20. 援護事業（共同募金配分金事業）

災害被災者・交通遺児への支援

- ・市内の火災等の災害に遭われた世帯に対し見舞金を支給しているが、今年度の支給は無かった。
- ・市環境課のご協力をいただき、小学生から高校生までの交通遺児に激励金を支給した。

	対 象 世 帯	金 額 (円)
災 害 見 舞 金	0	0
交通遺児激励金	1	1 5, 0 0 0

(事業効果等)

交通遺児激励金を支給することにより、被災者を見舞い、遺児を激励し、生活支援と福祉の増進に寄与することができた。

21. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行なった。

	申請地区数	総事業費 (円)	地元負担金 (円)	交付金額 (円)
遊具の修繕	3 地区	3 4 0, 1 2 0	1 4 4, 0 2 4	1 9 6, 0 9 6
		上西山、玉の木町、清水		
原材料支給等	1 5 地区	2 8 7, 7 4 1	—	2 8 7, 7 4 1
		昭和一・昭和三・赤坂・柏木原・野中・中山・中川原・二枚橋・横根山・上西山・升形上二区・升形五区・清水・市野々・福田		

(事業効果等)

区長と連携し、子ども達が安全に遊べるよう地域の遊び場の保全に協力できた。

22. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

会長杯ワナゲ大会の開催

会長杯ワナゲ大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

23. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

ひとり暮らしの高齢者を対象に、乳酸飲料を配りながら、声をかけることにより安否確認を行なった。

配達日 毎週月・水・金曜日
利用者 31名 延回数 3,304回

（事業効果等）

ヤクルト配達員やケアマネジャー等と連携し、見守りを行なうことができた。

24. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

ボランティアの協力により、他から除雪に係る作業的・金銭的支援を受けられない高齢者世帯の自宅の玄関前と軒先の除雪を支援した。

実施回数 : 19回（15世帯）
活動団体数 : 11団体
参加人数 : ボランティア延べ189名、職員延べ26名

25. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

- ・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行なった。
- ・ボランティア活動保険の加入業務を行ない、ボランティア団体の把握に努めた。
- ・ボランティアに関する研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止とした。

（1）災害ボランティアセンターの紹介

新庄青年会議所主催「楽しみながら防災力UP！2020新庄もがみ守リンピック」へ運営協力しながら、5市町村社協（新庄市、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村）によるブース運営（災害ボランティアセンターの紹介）を行なった。

日 時 : 令和2年10月25日（日）9時～15時30分
場 所 : 山屋セミナーハウス
派遣職員数 : 3名

（2）令和2年7月豪雨災害に伴う災害ボランティアに関する連絡調整及びボランティア活動

1）新庄市環境課との連携

- ・新庄市内の被害状況に関する情報共有
- ・災害ボランティアセンターの設置に関する協議
- ・ボランティアニーズ調査の打合せ
- ・災害ボランティア活動時における災害廃棄物等の搬出作業立ち合い（新庄市）
- ・災害ボランティア活動時の物品（ブルーシート、軍手等）提供（新庄市）

2）災害ボランティアに関するニーズ調査

日 時 : 令和2年7月30日（木）13時～15時
対 象 : 床上・床下浸水した世帯（畑地区7世帯、本合海地区9世帯）

3) 災害ボランティア活動

日 時：令和2年8月1日（土）9時15分～15時30分

場 所：本合海地区2世帯

活動内容

- ・宅地の泥のかき出し、土砂・流木・ごみの撤去
- ・水没した家財道具等の搬出 等

参加ボランティア：新庄青年会議所11名、新庄郵便局長会5名

担当職員：9名

※ 8月2日（日）はボランティアセンターとしての相談窓口のみ開設した。

(3) ボランティア団体との協働

- ・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者3世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施した。

26. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金配分金事業）

高齢者の方々が生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるよう、運動機能の向上を目的として介護予防体操を実施した。

開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階
②毎月第2金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室
③毎月第3金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室

参加人数：237名

実施回数：20回

講 師：公益社団法人山形県柔道整復師会
植木 俊和 氏（植木整骨院）
早坂 耐希 氏（早坂整骨院）
加藤 修 氏（かとう整骨院）

（事業効果等）

4月から9月までは新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催を中止し、10月から開始した。

老人福祉センターの参加者が多いため、第2金曜日を追加し、利用者を分散して感染予防対策を行なった。中止期間中は、自宅で体操ができるように資料を送付した。中止期間中も継続的に体操ができるように配慮し、身体機能の低下を改善することができた。

27. シニアタブレット教室（共同募金 地域福祉・在宅福祉事業配分）

シニア世代が趣味活動やコミュニケーションツールの活用を通して生きがいを創出し、生活に役立つ情報を得られるようになることを目的にシニアタブレット教室を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度に延期となった。

【老人福祉センター運営事業】

1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいつくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めた。

老人福祉センターまつりについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

◇避難訓練及び防火設備の点検

避難訓練や非常用ベル等の点検を実施し、利用者の安全確保に努めた。

(1) 老人福祉センター利用状況

		令和2年度	前年度	対前年比(%)
開館日数		296 日	299 日	99
利用者	延べ人数	7,476 人	11,736 人	63.7
	団体数	767 団体	1,315 団体	58.33
	1日の平均利用者数	25.3 人	39.3 人	64.38

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、4/3 から 5/17 の期間は休館、カラオケルームの利用中止、年度を通して利用団体の利用自粛により、利用者が大幅に減少した。

(2) 文化教室別利用状況（社協主催事業 共同募金配分事業）

文化教室種類	令和2年度(人)	前年度(人)	対前年比(%)
生け花教室	67	181	37.02
スポーツ吹矢教室	145	191	75.92
合計	212	372	56.99

※コロナウイルス感染拡大予防のため、開催自粛を行なった。

2. 老人福祉センター施設設備事業

○依頼業者：サンホーム

屋内階段手摺補強工事

北側駐車場渡り廊下工事

北側駐車場渡り廊下用手摺工事

駐車区分工事（ロープ）

工事費用 373,898円

○依頼業者：サンホーム

車止め工事

工事費用 330,924円

○依頼業者：㈱石川

カーブミラー設置工事

工事費用 49,500円

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、検温、マスク着用、換気対策を徹底して行なった。
施設の休館や利用自粛を行なったため、利用件数は大幅な減少となった。

昨年度に駐車場の整備に関する要望の署名活動の結果、今年度より、あじさい広場の一面を借用することができた。利用しやすい環境を整えるために駐車場整備を行なった。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進した。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	令和2年度 (円)	前 年 度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	3,911,950	3,891,250	100.53
企業募金 (会社・商店511、個人3)	1,818,564	1,848,985	98.35
街頭募金 (6団体)	41,733	115,240	36.21
学校募金 (市内16校)	239,757	124,963	191.86
職場募金 (19事業所)	64,688	54,882	117.87
篤志募金 (市民有志等)	113,115	110,281	102.57
合 計	6,189,807	6,145,601	100.72

※企業募金にご協力いただいた会社・商店については、令和3年3月発行の「社協だより」第44号に掲載した。

〈配分内容〉

配 分 先	かねやまハウス、すぎのこハウス、なかよし放課後児童クラブ、新庄幼稚園 ジュニアクラブ、新庄市社会福祉協議会
社 協 配分事業	老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、白寿・米寿祝い品贈呈、心配ごと相談事業、援護事業、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気ハツラツ予防体操

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	日新学区婦人会、沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、 新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会
街頭募金活動場所 活動場所提供協力	ヨークベニマル新庄店、ヤマザワ新庄店、ヤマザワ新庄宮内店、 マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店
学校募金協力校	新庄小学校、沼田小学校、日新小学校、北辰小学校、本合海小学校、升形小学校、萩野学園、新庄中学校、明倫中学校、日新中学校、八向中学校、新庄北高等学校、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校、新庄養護学校
職場募金 (募金協力)	新庄市役所、新庄市体育協会、最上広域市町村圏事務組合、新庄商工会議所、新庄最上地域シルバー人材センター
職場募金	新庄市役所市民相談室、もがみ物産館、マックスバリュ新庄店、よつば調剤薬局、セブンイレブン新庄新町店、産直まゆの郷、新庄市身体障害者福祉協会(県立病院売店、

(募金箱設置協力)	合同庁舎売店)、ファミリーマート新庄千門町店、郷野目ストア(株)中央店、郷野目ストア(株)桜町店、J A産直いなふね、(株)柿本商店、ダイユーエイト(株)新庄西店、新庄市老人福祉センター、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、門脇茂、鈴木幹男、矢口實、新庄市更生保護女性会、外匿名5名

(順不同・敬称略)

2. 歳末たすけあい募金

(1) 募金活動

〈募金内訳〉

	令和2年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	1,954,000	1,947,350	100.34
篤志募金 (市民有志等)	33,600	10,347	324.73
合 計	1,987,600	1,957,697	101.53

篤志募金協力 : 山形曹洞宗青年会最上支部 (敬称略)

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分した。

〈配分内訳〉

世帯区分	対象世帯数 (世帯)	配分金額 (円)
準生活保護世帯	13	195,000
高齢者世帯	45	675,000
母子・父子世帯	24	360,000
障がい者世帯	8	120,000
入院・入所世帯	1	15,000
その他困窮世帯	5	75,000
合 計	96	1,440,000

・配分額 現金15,000円×96世帯＝1,440,000円

白米：600Kg (60袋)

・地域福祉活動費として488,600円 新庄市共同募金委員会事務費として59,000円

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員や関係機関と協力を得て、効率的に調査・配分することができた。

白米は、谷地小屋の故太田進氏のご遺族である太田義次氏より寄贈していただいた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業 (もみの木介護支援事業所)

介護支援専門員 6名

介護を必要とされている方が自宅で適切にサービスを利用できるように、介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプランを作成し、医療機関、サービスを提供する事業所等との連絡・調整を行なった。

		令和2年度	前年度	対前年比(%)
要 介 護	件数	1,735件	1,680件	103.27
	収入	27,136,540円	26,256,860円	103.35
要支援・事業対象	件数	359件	255件	140.78
	収入	1,437,610円	1,023,260円	140.49
認 定 調 査	件数	137件	142件	96.48
	収入	508,200円	464,220円	109.47
合 計	件数	2,231件	2,077件	107.41
	収入	29,082,350円	27,744,340円	104.82

(課題等)

介護支援専門員1名増員となり、収入は全体で1,338千円増額となっている。

コロナ禍の影響により入院時の面会制限が設けられたため、末期がん等の在宅看取りの支援が増えた。コロナ収束の目途が遠く、今後も短期支援の利用が増えると考えられる。

多様な生活問題を抱える相談も多く、引き続き、利用者や家族に寄り添った支援を行なう。

2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所）

介護福祉士 8名

ホームヘルパー2級 11名

(令和3年3月31日現在)

介護を必要としている高齢者や障がい児者及びその家族が、住み慣れた自宅で自分らしい毎日を送れるよう、心身の援助を行なうと共に、居宅介護支援事業所等の関係機関と連携し業務を推進した。

		令和2年度	前年度	対前年比(%)
訪問介護事業	件数	703件	700件	100.43
	収入	33,104,196円	35,456,740円	93.37
障害者自立支援事業	件数	84件	71件	118.31
	収入	9,442,060円	8,878,780円	106.34
ひまわり介護サービス事業 〔福祉有償運送含む〕	件数	66件	67件	98.51
	収入	272,535円	286,520円	95.12
合 計	件数	853件	838件	101.79
	収入	42,818,791円	44,592,594円	96.02

(課題等)

- ・コロナ禍の中、予防、消毒等を徹底して事業を継続する。
- ・障害者自立支援事業は障がい児の利用が2名増えたことにより前年度と比較し増収となった。
- ・研修や月例会はコロナ禍の中でできる範囲で行ない、介護員の質の向上、健康管理に努めた。

- ・訪問介護については、居宅介護支援事業所からのケース紹介は増えてはいるが前年度と比べると収入は2,352千円の減少となる。令和元年度と平成30年度を比較すると半減している。年々減収が続いているため、増収に転じるように努力していく。
- ・処遇改善加算手当の支給により、介護職員のモチベーションが飛躍的に向上した。
- ・退職した介護員の欠員を埋めることが出来ず、人材不足が大きな課題である。人材確保の為、ハローワーク、福祉人材センター、社協広報紙で介護員の募集を継続している。
- ・福祉有償運送サービス事業については、運転できる有資格者が1名のみのため、研修を受講し、資格者の増員が必要である。

【地域包括支援センター運営事業】

1. 地域包括支援センター事業

主任介護支援専門員 3名 ・ 保健師 2名
 社会福祉士 3名 ・ 生活支援コーディネーター 1名
 認知症地域支援推進員 1名(保健師1名が兼務)
 事務補助員 1名

		令和2年度	前年度	対前年比(%)
相談事業	総合相談	7,594件	7,829件	97.00
	内介護相談	2,703件	2,831件	95.48

①認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする認知症サポーターを養成した。

場 所：東北労働金庫、わくわく新庄(第3区民児協)、萩野地区公民館(第1区民児協)
 開催回数：3回
 サポーター養成人数：46名

②オレンジカフェ(認知症カフェ)

気軽な雰囲気の中で認知症について学んだり、認知症を話題に交流できる場所として開催した。

場 所：ひと休み いっぷく
 開催回数：10回
 参加人数：83名

③いきいき百歳体操(筋力運動)・かみかみ百歳体操(口腔体操)

高齢者の社会参加と健康寿命の延伸を目的として、通いの場の支援を実施した。

No.	開催場所	開催日(曜日)	開催回数(回)	参加延べ人数(名)
1	老人福祉センター	毎週 月・木	78	1,310
2	新庄市体育館	毎週 月・木	68	694
計			146	2,004

④包括的・継続的ケアマネジメント

○介護支援専門員資質向上連絡会の開催

介護支援専門員同士の実践力向上やネットワーク構築のための研修会、情報交換会、事例検討会を開催した。

場 所：新庄市社協3階会議室、わくわく新庄2階研修室

開催回数：4回

参加延人数：介護支援専門員62名

○介護支援専門員への個別援助

介護支援専門員へ必要に応じてサポートを実施した。困難事例については、同行訪問や関係機関との連携を支援した。

- ・相談件数：27件
- ・メールによる情報発信：4回(31事業所)

⑤自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

多くの専門職が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、高齢者の課題解決を支援した。また、外部助言者からの専門的な助言を受け、自立支援につながるケアマネジメントの実践力向上を図った。

開催日程：毎月第3水曜日

検討ケース：27ケース

延参加者：239名

参加メンバー：新庄市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、サービス提供事業所、外部助言者

⑥一人暮らし高齢者世帯への巡回訪問

市内75歳以上の介護サービスの利用や健康診断を受けていない一人暮らし高齢者世帯を市健康課と巡回訪問し、布マスクを配付しながら、健康状態の確認や相談先の紹介、健康に関する情報提供を実施した。心配な高齢者世帯には、再訪問を実施し、必要に応じて介護サービス等に繋ぐ等の支援を行なった。

訪問時期：6月下旬～7月中旬 訪問世帯：377世帯 心配高齢者世帯：16世帯

(事業効果等)

地域包括支援センターの三職種（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）が各専門性を活かした相談支援を実施することができた。今年度は、新型コロナウイルスの影響で外出自粛となっている一人暮らし高齢者世帯の見守り訪問を実施し、安否確認や困った時の相談先の周知を実施できたことが大きな成果であった。また、各事業において研修会や会議を一部中止したこともあったが、感染症対策をしながら、可能な限り開催することができた。今後は、オンラインを活用した研修会を検討していく。

2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護予防ケアマネジメント	令和2年度	前年度	対前年比(%)
総件数	4,608件	4,618件	99.78
内センター作成分	1,454件	1,582件	91.91
委託件数	3,154件	3,036件	103.87
収入金額	20,200,620円	19,298,910円	104.67
委託費支出金額	12,492,340円	12,332,310円	101.30

(事業効果等)

新型コロナウイルスの影響で、サービス利用を休止した事業所があったため、令和2年4月から5月にかけては、ケアマネジメントの件数が大きく減少したが、6月以降は増加傾向となり、年度を通して前年度と同等の件数で推移した。全体的に保有ケースが増加したため、居宅介護支援事業所に委託するケースが増えたが、適正なケアマネジメントとなるよう、各事業所へ適切な指導を行なうことができた。